

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

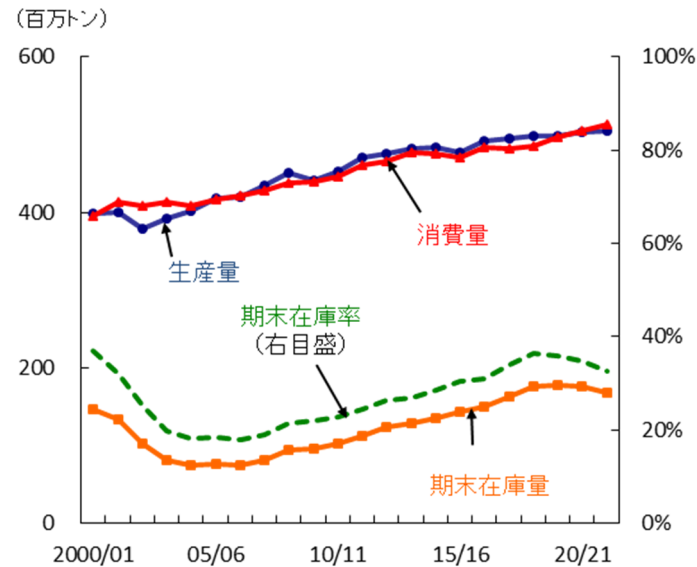
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出力 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021. 6. 10）をもとに農林水産省にて作成

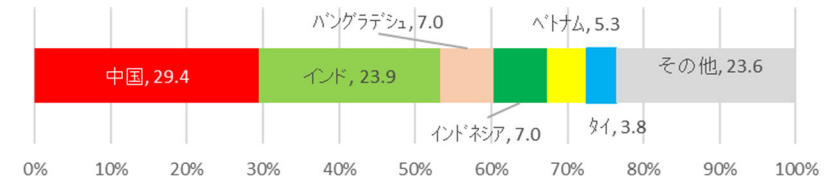
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

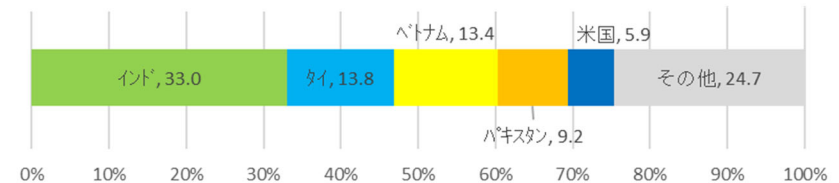
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	497.8	505.0	506.6	1.2	0.3
消 費 量	496.5	506.6	514.5	1.2	1.6
輸 出 量	43.4	47.1	47.0	0.5	▲ 0.3
輸 入 量	42.3	44.2	44.7	0.4	1.1
期末在庫量	177.9	176.3	168.4	0.4	▲ 4.5
期末在庫率	35.8%	34.8%	32.7%	0.0	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 June 2021)

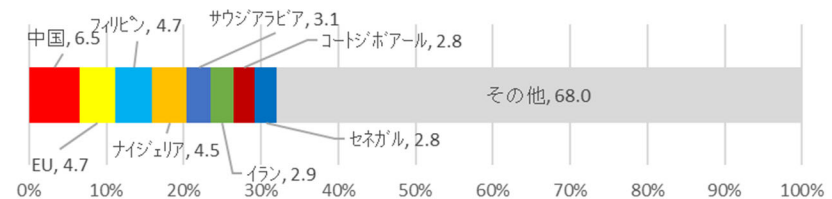
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量 (506.6百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出力 (47.0百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量 (44.7百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、2021/22 年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 10.7%減の 6.5 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約 25%を占める。同「Rice Outlook」（2021.6.14）によれば、前年度に比べて作付面積は減少する見通し。長粒種はデルタ地帯の主な代替作物であるとうもろこしと大豆の価格上昇の影響もあり前年度より面積が減少した。中・短粒種は、冬に北部シエラ山脈の積雪量が平年を大幅に下回ったことで、カリフォルニア州における灌漑水の供給量不足により作付面積が大幅に減少した。

同「Crop Progress」（2021.6.21）によれば、主要生産 6 州の 6 月 20 日現在の出穂率は 3 %で過去 5 年（2016-2020 年）平均（6 %）より 3 ポイント遅れている。主要 6 州の作柄評価は、良からやや良が 74%と前年度同期（73%）を 1 ポイント上回っている。そのうちカリフォルニア州は良からやや良が 90%となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、消費量は前月予測から変更はなく対前年度比 1.4%減の 5.0 百万トンの見込み。輸出量も前月予測から変更はなく対前年度比 4.5%減の 2.8 百万トンの見込み。生産量の減少に加えて、特に米国産長粒種の価格が他の輸出国に比べて高いため輸出競争力に乏しいことが要因と見られる。輸入量は対前年度比 10.9%増の 1.2 百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」（2021.6.14）によれば、灌漑用水の不足によりカリフォルニア米の価格が上昇している。6 月 8 日時点の地中海向けカリフォルニア米（1 等、碎米 4 %混入）の価格は 5 月 11 日時点より 75 ドル上昇し、干ばつとなった 2014 年 9 月以来の高値となる 1,020 ドル/トン。一方、6 月 8 日時点の長粒種の価格については、イラク向け長粒種（2 等、碎米 4 %混入）は 5 月 11 日時点と変わらず 630 ドル/トンとなっている（P18 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.5	-	▲ 10.7
消費量	4.6	5.0	5.0	-	▲ 1.4
輸出量	3.0	2.9	2.8	-	▲ 4.5
輸入量	1.2	1.1	1.2	-	10.9
期末在庫量	0.9	1.3	1.2	▲ 0.1	▲ 4.6
期末在庫率	12.0%	16.4%	16.0%	▲ 0.8	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.08	-	▲ 10.7
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.57	-	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（10 June 2021）

<インド>

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測から1.0百万トン上方修正され、対前年度比0.8%減の121.0百万トンの見込み。同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.6.22)によれば、例年より7～10日早いモンスーンにより主要産地の多くで降雨があった。このため土壌水分量が高まり生産者の作付けを早めさせた。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測から1.0百万トン上方修正され、対前年度比0.9%増の108.0百万トンの見通し。

同「Rice Outlook」(2021.6.14)によれば、インド産米(碎米5%混入)の6月8日時点の価格は5月11日時点よりも10ドル安い385ドル/トンであり、依然としてタイやベトナムなどアジアの他の輸出国よりも競争力が高い(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

同「Grain: World Markets and Trade」(2021.6.10)によれば、2021/22年度の輸出量は前月予測から0.5百万トン上方修正され、対前年度比8.8%減の15.5百万トンとなる見込み。前年度に次いで史上2番目の高水準となる。

USDAによれば、2020/21年度のインドのコメ輸出量は史上最高の17百万トンになる見込みであり、2021年3月には一か月当たり最高の約2.5百万トンの輸出量を記録した。2021年第1四半期の輸出量は6百万トン以上となり、非バスマティ米はこの10年で初めて中国にも輸出されている。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

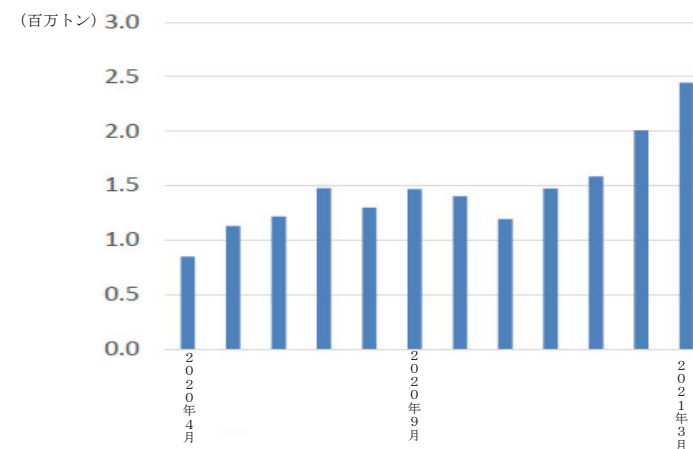
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	118.9	122.0	121.0	(122.0)	1.0	▲ 0.8
消費量	106.0	107.0	108.0	(107.2)	1.0	0.9
輸出量	12.5	17.0	15.5	(14.7)	0.5	▲ 8.8
輸入量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	29.9	27.9	25.4	(25.6)	▲ 1.0	▲ 9.0
期末在庫率	25.2%	22.5%	20.6%	(21.0%)	▲ 1.1	▲ 1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.66	44.40	44.40	(44.75)	0.40	-
単収(もみt/ha)	4.08	4.12	4.09	(2.73)	-	▲ 0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC「Grain Market Report」(27 May 2021) (単収は精米t/ha)

図: インドの月別コメ輸出量 (2020年4月～2021年3月)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.6.10)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測と変わらず、対前年度比0.5%増の149.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測と変わらず、対前年度比3.9%増の156.0百万トンの見込み。同「Rice Outlook」

(2021.6.14)によれば2021/22年の中国の増加が予測される消費量のほぼすべてを工業用と飼料用が占める。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は前月予測と変わらず、前年度と同じ2.4百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は前月予測から0.2%上方修正され、対前年度比14.7%減の2.9百万トンの見込み。中国は国内産と比較して輸入米の価格が安いのでこの10年で初めて非バスマティ米をインドから輸入した。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」(2021年4月)によれば、国内産米の価格は穏やかに下落。米の消費は低迷が続いている一方、精米業者の在庫は充分で、精米工場の稼働率は比較的低位、仕入れ意欲が弱いことから前期より早稲インディカ粳価格は横ばい、中晩稲インディカ粳価格は下落した。ともに、前年同期よりは上昇した。ジャポニカ粳価格については黒竜江省での粳の最低買付価格政策の実施期間が終了し、春耕を迎え農家の資金需要が増加し、余剰在庫の販売意欲が高まりやや下落した。また、国際米価格が下落し続けており、輸入米の価格優位性が高まったことで輸入量が増加し国内米価格の上昇を抑えた。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.7	148.3	149.0	(150.5)	-	0.5
消 費 量	145.2	150.2	156.0	(150.0)	-	3.9
輸 出 量	2.6	2.4	2.4	(2.7)	-	0.0
輸 入 量	2.6	3.4	2.9	(2.6)	0.2	▲ 14.7
期末在庫量	116.5	115.6	109.1	(110.8)	0.4	▲ 5.6
期末在庫率	78.8%	75.8%	68.9%	(72.5%)	0.3	▲ 6.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00	(30.30)	-	▲ 0.3
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10	(4.97)	-	0.9

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC「Grain Market Report」(27 May 2021) (単収は精米t/ha)

< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、18.8百万トンと対前年度比6.2%の増加見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.6.22)によれば、タイ周辺では、モンスーンによる降雨と弱いサイクロン(Koguma)が北部を通過したことで雨量が増加した。多くの地域で25～100ミリメートルの降雨量を記録し、灌漑米の水分供給が改善した。タイ北東部の一部では乾燥気候が見られるものの、短期的な水分状態は良好であった。

USDAによれば、2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は前月予測と変わらず、対前年度比3.6%増の19.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変わらず対前年度比12.1%増の6.5百万トンの見込みとなり、ベトナムの輸出量

(6.3百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。

タイ米輸出協会によれば、2021年1月から4月までの輸出量は、前年同期比31.0%減少の145.9万トン。輸出先国は、米国(19.0万トン)、南アフリカ(18.0万トン)、中国(10.9万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.6.14)によれば、6月7日時点のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は5月10日時点の490ドル/トンより18ドル安い472ドル/トンとなっており、ベトナム産米(長粒、碎米5%混入)よりも低価格となっている。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

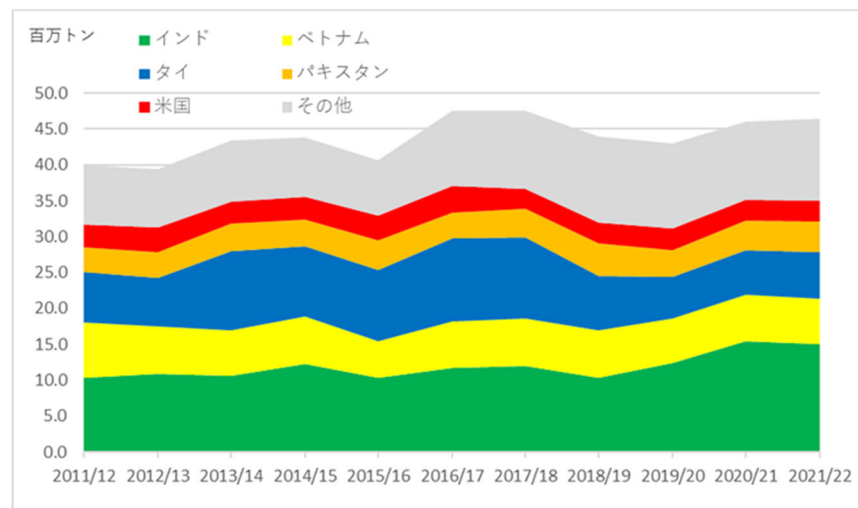
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	17.7	18.8	19.5 (20.1)	-	3.6	
消 費 量	12.3	12.7	12.9 (12.0)	-	1.6	
輸 出 量	5.7	5.8	6.5 (7.5)	-	12.1	
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.5	4.8 (6.8)	0.1	6.7	
期末在庫率	22.1%	24.4%	24.8% (34.6%)	0.5	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.40	10.50 (10.63)	-	1.0	
単収(もみt/ha)	2.70	2.74	2.81 (1.89)	-	2.6	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 June 2021)

IGC「Grain Market Report」(27 May 2021) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.6.10)をもとに農林水産省にて作成

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前年度と変わらず27.1百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」(2021.6.10)によれば、ベトナム北部では冬・春作の収穫がほぼ終了しており、南部では5月に収穫を終えている。夏・秋作の収穫は夏の終わりに始まる。夏・秋作は雨期に栽培されることで水分含有量が多くなり、冬・春作と比較して品質が悪いため、一般的に冬・春作よりも低価格で販売される。

2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は前月予測と変わらず、対前年度比0.7%減少の26.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から下方修正され、対前年度比1.6%増の6.3百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は前月予測と変わらず、前年度と同じ6.3百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から5月の間のコメの輸出量は259.8万トン。

USDA「Rice Outlook」(2021.6.14)によれば、ベトナム産米(長粒、碎米5%混入)は新規の需要が乏しいことで、6月8日時点の価格は5月11日時点よりも10ドル下落し485ドル/トンであるが、タイ産米(長粒、2等丸米)よりも高値である。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.1	26.9 (28.3)	-	▲ 0.7
消費量	21.3	21.3	21.2 (22.6)	-	▲ 0.2
輸出量	6.2	6.3	6.3 (6.5)	-	-
輸入量	0.4	0.5	0.5 (0.6)	-	-
期末在庫量	1.2	1.2	1.1 (2.8)	0.1	▲ 8.1
期末在庫率	4.3%	4.5%	4.1% (9.6%)	0.4	▲ 0.4

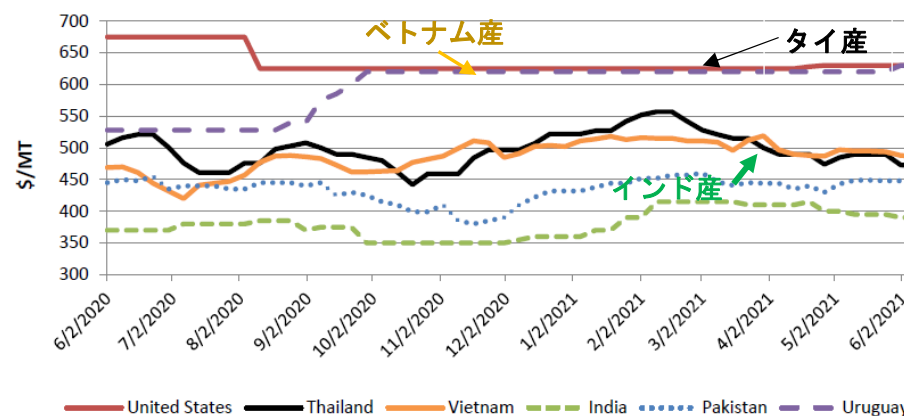
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.35	7.30 (7.45)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	5.88	5.90	5.90 (3.80)	-	-

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)

IGC「Grain Market Report」(27 May 2021) (単収は精米t/ha)

図:長粒種のFOB価格の推移



資料:USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.6.10)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月からわずかに下方修正された。史上最高の見込み。

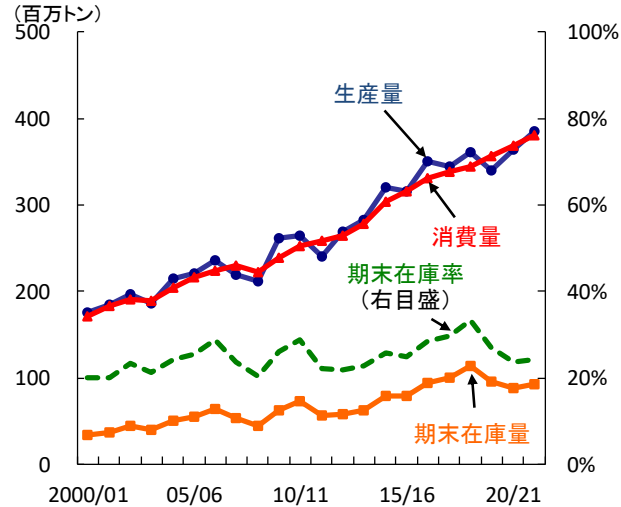
消費量 前年度比 ↑ 前月比 —

・前月から変更なし。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —

・前月から変更なし。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.6.10）をもとに農林水産省で作成

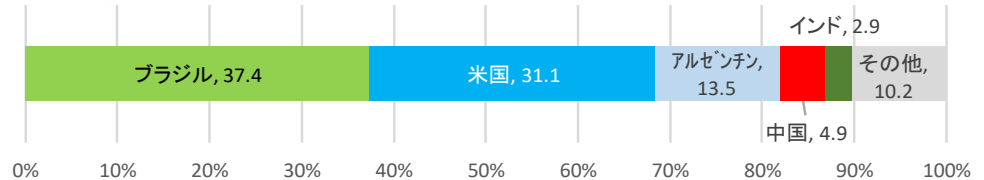
◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

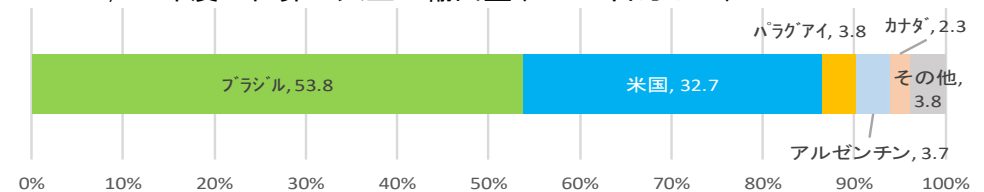
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	339.4	364.1	385.5	▲ 0.0	5.9
消 費 量	357.4	369.0	380.8	—	3.2
うち搾油用	311.5	322.1	331.7	—	3.0
輸 出 量	165.1	171.4	172.9	—	0.9
輸 入 量	165.0	167.8	172.7	—	2.9
期末在庫量	96.5	88.0	92.6	1.5	5.2
期末在庫率	27.0%	23.8%	24.3%	0.4	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 June 2021）

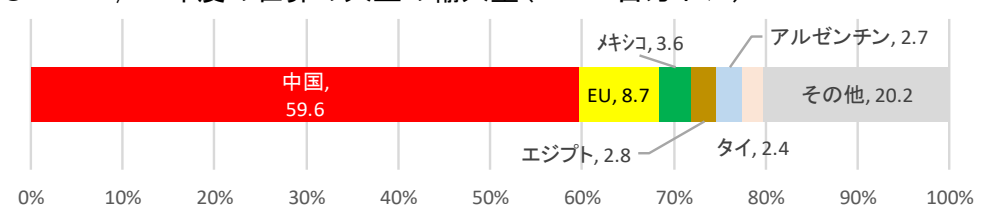
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (385.5 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (172.9 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (172.7 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、主に大豆価格の上昇を背景とする収穫面積の増加から前年度より 6.5%増の 119.9 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.6.21)によれば、主要 18 州における作付け進捗率は 97%と、前年度同期（96%）及び過去 5 年平均（94%）より進んでいる。発芽率も 91%と、前年度同期（88%）及び過去 5 年平均（85%）より進んでいる。開花率は 5 %と、前年度同期（5 %）及び過去 5 年平均（5 %）並みとなっている。作柄評価は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 60%と前年度同期（70%）を下回っている。今後の高温乾燥の継続に注意が必要。

【需要動向】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、大豆由来のバイオ燃料需要の増加により搾油用需要を中心に増加することから、前年度より 2.8%増の 63.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 9.0%減の 56.5 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、輸出検証高（2021 年 1 月 7 日～6 月 3 日）は、17.5 百万トンであり、内訳は中国（7.4 百万トン）、メキシコ（1.9 百万トン）、エジプト（1.4 百万トン）、インドネシア（1.0 百万トン）の順。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、前年度の国内の飼料用向け大豆粕需要の減少から搾油用需要の下方修正により 0.4 百万トン上方修正され、前年度より 15.3%増の 4.2 百万トンの見込み。しかし、期末在庫率は 3.5%で依然として低水準となっている。

大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	96.7	112.6	119.9	－	6.5
消 費 量	61.8	62.1	63.8	－	2.8
うち搾油用	58.9	59.2	60.6	－	2.3
輸 出 量	45.8	62.1	56.5	－	▲ 9.0
輸 入 量	0.4	1.0	1.0	－	－
期末在庫量	14.3	3.7	4.2	0.4	15.3
期末在庫率	13.3%	2.9%	3.5%	0.3	0.6

(参考)
 収穫面積(百万ha) 30.33 33.31 35.09 ー 5.3
 単収(t/ha) 3.19 3.38 3.42 ー 1.2
 資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 June 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆価格の上昇やレアル安を背景とする収穫面積の増加から、前年度より5.1%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。本年9月以降に作付けが開始される。なお、2020/21年度の収穫は、主産地では終了している。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.6.10)によれば、2020/21年度の実産量は、単収が前月予測から上方修正され、前年度より8.8%増の135.9百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より8.1%増の93.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年5月の輸出量は16.4百万トンで、前年同月(14.1百万トン)に比べ16%増。2021年1～5月の輸出量は48.3百万トンで、前年同期に比べ5%増となっている。内訳は、1位が中国で34.1百万トン、2位がスペインで1.8百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデス州等 作付 4.4(百万ha)												収穫 24.7(百万t) → 収穫夏冬計 96.4百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 19.8百万ha												作付 15.5(百万ha) → 収穫 71.7(百万t)								
大豆	マトグロソ州、パラナ州等 作付 38.5(百万ha)												大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種 → 収穫 135.9(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2021.6.10)

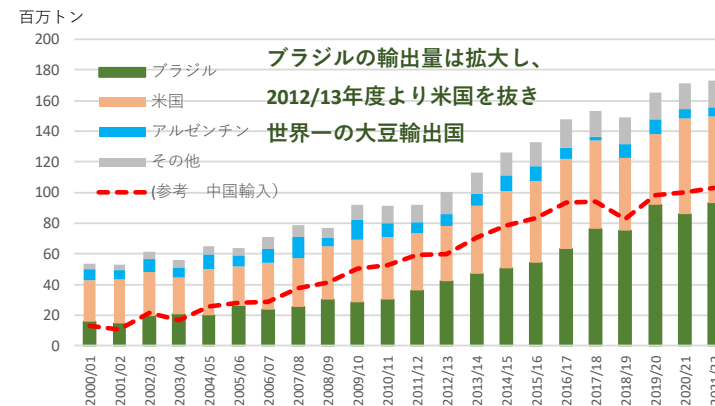
大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	128.5	137.0	144.0 (140.5)	-	5.1
消 費 量	48.7	49.4	50.4 (49.3)	-	1.9
うち搾油用	46.0	46.8	47.7 (46.3)	-	2.0
輸 出 量	92.1	86.0	93.0 (91.1)	-	8.1
輸 入 量	0.6	0.7	0.7 (0.1)	-	▲ 7.1
期末在庫量	20.7	23.0	24.3 (3.0)	1.0	5.6
期末在庫率	14.7%	17.0%	17.0% (2.1%)	0.7	▲ 0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.90	38.60	40.40 (40.00)	-	4.7
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.51)	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC「Grain Market Report」(27 May 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.6.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より10.6%増の52.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.6.17）によれば、収穫率は99%でおおむね終了し、過去5年平均より1ポイント進んでいる。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より2.4%増の49.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量は増加するものの、国内消費量も増加することから伸びず、前年度と同じ6.4百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～4月の輸出量は47.8万トンで、収穫遅れにより輸出可能な大豆がないため、前年同期（88.4万トン）より45.9%減。内訳は、1位がエジプト23.9万トン、2位が中国13.2万トン、3位がチリ3.2万トンとなっている。なお、上流のブラジル南部の降雨不足により、パラナ川の水位が低下しており、アルゼンチンの穀物等の輸出の一部に支障が出る懸念がある。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から最大33%へ引き上げ、現在も継続中。

写真：北部サンタフェ州の大豆の貯蔵施設と施設内のサイロバックでの貯蔵風景
（5月27日撮影）
貯蔵施設の容量を上回った分をサイロバックで保管している。



大豆－アルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	48.8	47.0	52.0 (50.0)	-	10.6	
消 費 量	45.9	48.7	49.9 (47.5)	-	2.4	
うち搾油用	38.8	41.5	42.5 (40.7)	-	2.4	
輸 出 量	10.0	6.4	6.4 (7.6)	-	-	
輸 入 量	4.9	4.7	4.7 (4.9)	-	-	
期末在庫量	26.7	23.4	23.9 (3.1)	-	2.1	
期末在庫率	47.8%	42.4%	42.4% (5.7%)	-	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.50	17.20 (17.35)	-	4.2	
単収(t/ha)	2.92	2.85	3.02 (2.88)	-	6.0	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(10 June 2021)

IGC「Grain Market Report」(27 May 2021)

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

なお、中国中央气象台（2021.6.4）によれば、5月末に黒竜江省等東北地区の播種作業は終盤に入り、6月上旬現在、大部分が出苗期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油マージンの悪化等により過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、搾油用需要の増加から、前年度より4.5%増の119.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.0%増の103.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～4月の輸入量は28.6百万トンと、前年同期比で16.8%増。内訳は、米国産21.3百万トン（74%）、ブラジル産6.4百万トン（22%）。遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、4月の輸入量はブラジル産が5.1百万トンと68%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報4月号」によると、4月、大豆製品の代替供給が増加し、国産大豆の需要と取引業者の仕入れ意欲は低迷した。黒竜江省等東北地区の農家は播種期を迎えて、大豆の販売意欲が強く、4月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は小幅に下落したものの、6,080元／トンで依然高水準である。一方、4月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,120元／トンと前月から小幅に低下した。

大豆－中国

（単位：百万トン）

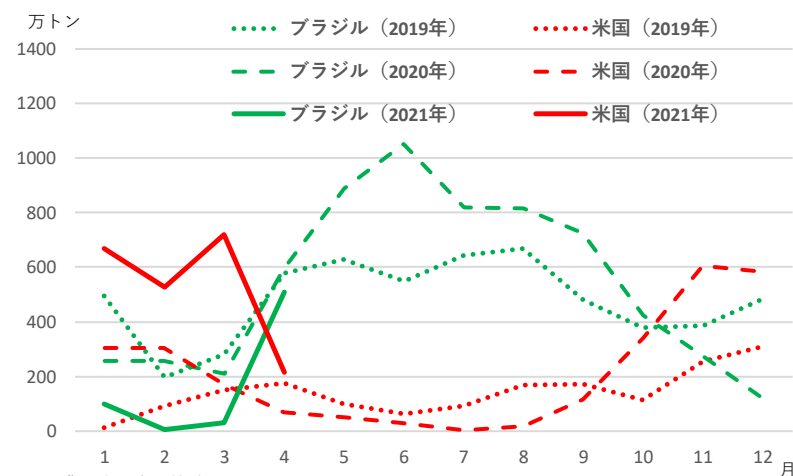
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	-	▲ 3.1
消 費 量	109.2	114.5	119.7 (121.8)	-	4.5
うち搾油用	91.5	96.0	100.0 (102.6)	-	4.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	98.5	100.0	103.0 (104.5)	-	3.0
期末在庫量	26.8	31.8	34.0 (35.2)	-	6.9
期末在庫率	24.5%	27.7%	28.4% (28.9%)	-	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.35)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (1.99)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 June 2021)
IGC「Grain Market Report」(27 May 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収は前年度から低下するものの、収穫面積が増加することから、前年度より0.8%増の6.4百万トンの見込み。作付けは、6月に入りほぼ終了した。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.6.22)によれば、主産地のオンタリオ州などカナダ南東部では、おおむね高温・乾燥傾向で、生育にはさらなる降雨が必要。また、マニトバ州など平原3州では、おおむね乾燥傾向で、生育にはさらなる降雨が必要。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2021.6.18)によれば、2021/22年度の生産量は、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ南東部オンタリオ州を中心に作付面積が増加するものの、前年度の高単収より低い過去5年平均単収を前提にすると、前年度より2.1%減の6.2百万トンの見込み。カナダ南東部の天候は、気温もまちまちで、土壌水分もかなり不足している地域もあり、今後の生育への影響が懸念される。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ2.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より9.1%減の4.0百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の2020年8月～2021年4月の輸出量は349.8万トンで、国別では、イラン(79.7万トン)、イタリア(38.6万トン)、アルジェリア(35.6万トン)の順。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	6.1	6.4	6.4 (6.2)	-	0.8	
消費量	2.5	2.7	2.7 (2.3)	-	-	
うち搾油用	1.7	2.0	2.0 (1.8)	-	-	
輸 出 量	3.9	4.4	4.0 (4.5)	-	▲ 9.1	
輸 入 量	0.3	0.4	0.4 (0.4)	-	14.3	
期末在庫量	0.7	0.3	0.3 (0.2)	-	19.6	
期末在庫率	11.3%	3.8%	4.9% (3.3%)	-	1.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.20 (2.16)	-	7.8	
単収(t/ha)	2.71	3.11	2.91 (2.88)	-	▲ 6.4	

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 June 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 June 2021)

写真：南東部オンタリオ州の大豆の播種風景
(5月22日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 6 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---